

共同助成(千葉県遊技業協同組合)

「HSCが活躍できる環境づくり推進」事業

人の気持ちや刺激に敏感な気質を持った HSCの子どもたちに対する理解を深める

毎年、文部科学省から発表される不登校児童生徒の数は増加傾向に歯止めがかからず、大きな社会問題となっている。不登校の原因の一つとして挙げられているのが、学校などの教育現場でのHSCに対する理解不足である。HSCで悩む子どもやその親を支援するために、このHSCの啓発活動を事業の柱の一つに据えて活動した。



HSCの啓発のために実施した講演会



HSCで苦しんでいる子どもや親のため、 理解の促進や啓発活動に取り組む

2018年5月に設立されたNPO法人「千葉子ども家庭支援センター」は、主に「フリースクール事業」「教育相談事業」「講演会活動」「調査研究事業」の4つの活動を行っている。フリースクール事業では、義務教育段階にある子どもたちのうち、学校へ通えていない不登校児童生徒のために学習指導を行っている。また、教育相談事業では、特に「HSC(Highly Sensitive Child)」と呼ばれる気質がある子どもを持った親からの悩みごとの相談が多いことから、教育関係者向けに講演会を実施し、HSCを広く知ってもらうことで、不登校児童生徒が少しでも減少することに寄与したいと考えて活動している。

そもそもHSCやHSP(Highly Sensitive Person)は、1990年代後半にアメリカの心理学者、エレイン・アーロン

博士によって提唱された概念で、思慮深く、人の気持ちや刺激に敏感な気質を持った人たちを指し、日本語に訳すと「とても繊細な子ども、人」という意味になる。実は人口の約1/5はこのHSPではないかと言われている。現在の学校現場ではこうした気質を持つ子どもたちのことが十分に理解されていない傾向が見られ、それによって学校生活で苦しんでいる子どもを持った親から数多く相談が寄せられている。

HSCは、状況を把握し周りに合わせることで得意なため、学校などの集団生活においては身を削って協調性や共感性を発揮し、貢献している存在である。しかし、こうした気質への理解がない場合は、義務教育の段階で疲弊してしまうことも事実である。社会全体にこのHSCやHSPについて知ってもらいたいという思いから、今回の事業を計画した。

講演会、動画制作、関係書籍の 送付や小冊子制作に助成を活用

昨年度POSCの助成を受け、HSCの啓発のために以下の事業を実施した。

①講演会:2023年2月19日、ちよだプラットフォームスクウェア(参加数120人〔会場20人、ネット100人〕)／同年2月24日、浜松市教育会館(参加数110人)／同年2月26日、ACQUA E SOLE(参加数20人)

②啓発動画の制作・配信:動画を4本制作(長編1本、短編3本)。順次、YouTubeで配信。

③関係書籍の送付:『一生幸せなHSCの育て方』を政令市の子育て支援部署、マスコミ、企業など400カ所に送付。『HSCがありのままで幸せになれる教室』を千葉県内の教育委員会、マスコミなど100カ所に送付。

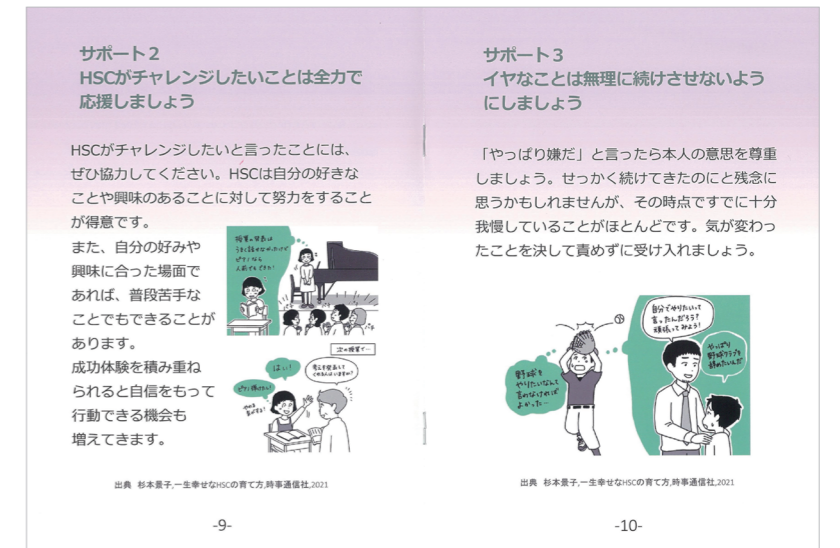
④小冊子の制作・送付:千葉市内の小児科医院などへ3,200部送付。

講演活動では会場とネットの両方の参加が可能なハイブリッド型の講演にチャレンジしたうえ、これまで接点を持つことがなかなかできなかった民間企業や全国の政令市の子育て支援担当部署に周知ができた。また、小児科医に小冊子を送ることができたことは、HSCを持つ保護者にとって大きな喜びではないかと、捉えている。

HSCについて多くの方々に理解してもらうためにはまだまだ時間がかかるが、やはり学校関係者が理解することが先決である。今回作成した動画や小冊子などを使って、継続的にHSCへの理解、啓発を図っていきたいと考えている。

千葉県遊技業協同組合より

一般的にはまだ馴染みが薄いHSCですが、不登校問題の解決の一助になればと願い、支援することにしました。



千葉市内の小児科医院などへ配布した小冊子

助成団体:特定非営利活動法人 千葉子ども家庭支援センター



実施した4つの事業が絡み合って効果を発揮することを期待しています

今回、POSCから助成をしていただけたおかげで、これまでの事業ではなかなかできなかったことができました。HSCがその気質の良さをいかし、将来活躍することは社会にとっても大変価値のあることです。これからも周知活動を続けていきたいと思っております。今回活動の応援をしていただいたことは、大変励みになりました。心から感謝しております。

特定非営利活動法人 千葉子ども家庭支援センター
代表者 杉本 景子さん